

もう20数年前になるでしょうか、地球温暖化についてこの編集後記に書いた覚えがあります。当時はまだ、現在ほどには地球温暖化の問題が声高には叫ばれていませんでしたが、埼玉などの内陸部が東京のヒートアイランド現象による熱風の溜まり場になっていることは知られるようになっていましたので、埼玉で勤務していた身としては気候変動の危機を実感していました（都市部のヒートアイランド現象と温室効果ガスによる地球温暖化は、気温上昇の機序が異なりますが、埼玉あたりはそのダブルパンチを受けます）。また、併せて、近い将来、関東あたりは亜熱帯化するという予測記事が出た頃で、じゃあ関東が亜熱帯なら記事では無視されていた私の出身地の九州はいったいどうなるのか、などととぼけたことを書いたように思います。20数年たった現在、残念ながら、当時の予測はそのまま当てはまるように推移しています。

このすさまじい暑さの中、また未だCOVID-19が蔓延する中、久しぶりに開かれた出身大学皮膚科の同窓会および動物祭に出席してきました。動物祭とは、毎年夏に実験動物の供養をしてその後お酒を酌み交わす単独の恒例行事でしたが、最近では同窓会と同じ日に行われるようになり、その日も会合で動物供養の報告がなされました。動物祭に出席するたびに、ずっと以前、あるアメリカ人と話した時の驚きを思い返します。文学に造詣の深いこのアメリカ人に、動物祭のことを話したところ、興味深いがそういった儀式はunreligious（非宗教的、不信心な）であると言われてしまいました。動物愛護に熱心な人が多いようにみえる欧米人が、みんなではないにしても、動物の霊を祀る儀式をそのように捉えることに違和感をおぼえましたが、キリスト教の教えからするととってもな面もあるようです。彼女の説明では、聖書に書かれているように人間と他の動物は同列ではなく、人間と同じように動物の霊を祀ることは宗教的には正しくない、それは動物愛護とは別問題ということでした。

そういった視点からみると、欧米の畜産農家と家畜との関係が少しだけみえてくるような気がしています。『小さな村の物語 イタリア』という番組がありますが、そこではそれこそ善良で働き者の畜産農業者が家畜を本当に愛情こめて育てている様子が描かれています。しかし、その家畜がいずれ殺処分されることについて番組で触れられることはありません。でも、その際、あれほど家畜を慈しんできた人々は、どのようにして心の整理をつけているのか、いつも気になっていました。前述のような動物に対する考え方は、そういった際、気持ちに折り合いをつけるのに必要なかもしれません。

夏の動物祭、アメリカ人との会話、欧州の畜産農家のテレビ放送が、この厳しい残暑の中で混線して妙なことを書いてしまいました。どうぞご容赦ください。

(土田哲也)

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第66巻 第11号 10月号

2024年10月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 50,160 円（本体 45,600 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。